

令和3年度・4年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実践



令和4年10月
中種子町立中種子中学校

目 次

I はじめに

- 1 中種子町の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 学校の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 生徒の実態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

II 研究の概要

- 1 研究の主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 4 研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 5 租税教育の全体計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 6 租税教育年間計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

III 研究の実際

- 1 租税教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (1) 令和3年度租税教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (2) 令和4年度租税教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2 税に関する授業実践(社会科)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 3 財政教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - (1) 財政教育プログラム(第1学年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - (2) 財政教育(第2・3学年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 4 税に関する作品(作文)について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 5 税の書籍コーナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 6 テスト問題として出題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

IV 研究のまとめ

- 1 税に関するアンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 2 アンケート結果の考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 3 研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 4 今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

V 終わりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

I はじめに

1 中種子町の概要

中種子町は、鹿児島県大隅半島南端から約 40 キロメートル南に位置し、北は西之表市、南は南種子町に隣接、東は太平洋、西は東シナ海に面している。東西 6～9 キロメートル、南北 22 キロメートルで、総面積は 137.18 平方キロメートルである。種子島の中央に位置する本町は、他の市町への交通のアクセスがよだけでなく空港もあり、島内で最大規模の施設が多く設置されているなど、その名の通り種子島の中核を担っている。

地形は緩やかな丘陵をなし、北部は山林地帯が多く、最も高い山が標高 282 メートルであり、中央部から南部にかけて比較的平坦で、耕地が多くなっている。海の至る所でサンゴ礁を見ることができ、サーフィンに適した波を求めて多くの人々が県内外から訪れている。

2 学校の概要

本校は、種子島の中央部に位置する中種子町の唯一の中学校である。平成 16 年に「星原中学校」「増田中学校」「南界中学校」「野間中学校」の 4 つの中学校が統合しており、今年度で 19 年目、来年度で創立 20 周年を迎える。また、校区内には 7 つの小学校があり、そのうち「野間小学校」を除く 6 つの小学校区から本校にバスで登下校している。小規模の小学校が多いため、中学校での人間関係の構築を心配されるが、小学校時に各学校で宿泊学習や修学旅行などで交流を行っているため、小規模校から入学した多くの生徒たちは不安なく学校生活を過ごせている。

3 生徒の実態

本校の生徒たちは、素直で優しい生徒が多い。開校当初は 313 人いた生徒も、現在では少子化の影響を受けて 184 人まで減少しているが、「風に向かって立つ」の校訓のもと、どんな困難とぶつかっても乗り越える強い気持ちをもつ生徒が多い。どの学校行事に対しても生徒会を中心に精一杯取り組む様子が見られ、特に体育大会で行う「よさこいソーラン節」は教師ではなく、先輩が後輩に教えることが伝統となっている。部活動では、少子化の影響で各部の人数が減っている中でも、県大会等で好成績を残して九州大会や全国大会に出場する生徒がいるなど、盛んに行われている。



よさこいソーラン節



「風立祭（文化祭）」



離島甲子園（野球部）

II 研究の概要

1 研究の主題

租税教育を通して、税に対する興味・関心を高めるとともに、社会を支える一人としての自覚をもち、地域社会に貢献する意欲や態度を育成する。

2 主題設定の理由

かつて、政府の役割は「小さな政府」として国家の防衛のみを行うことが望ましく、経済についても「神の見えざる手」によって景気は自然と安定していくと思われていた時代がある。だが、現代では、人権意識の高まりとともに、多くの人々によってよりよい暮らしを追求していく中で政府の役割が「大きな政府」へと変貌し、そのために多くの税収が必要となってきている。税は、すべての人が人間らしく生きるために、また、お互いに助け合っていくために、私たちの生活には欠かせないものである。

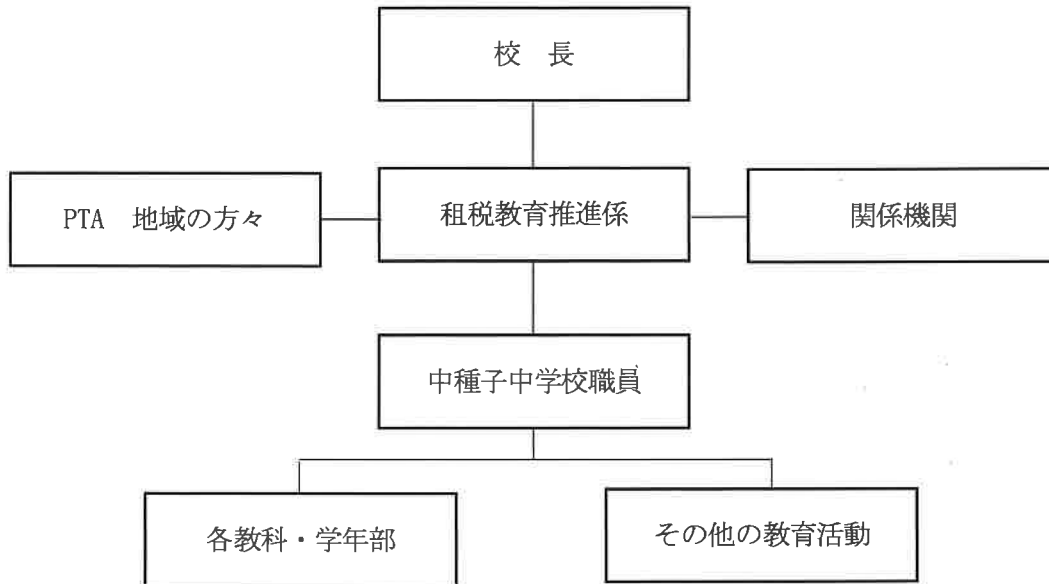
しかし、現在では少子高齢化が急速に進み、税を活用して社会保障を行う必要性は高まる一方で、その税を負担する若年層の割合が減少している。このままの状態が続けば、必要な歳出に対して歳入が今以上に足りなくなり、政府によるサービスの低下やさらに多くの国債を発行することになってしまう。今後の日本はどうなっていくのかと、多くの国民が不安を抱えている一方で、そんな現状を知らず租税の大切さについてあまり理解がない人たちがいる状況もある。

租税教育は、そんな課題がある中でも租税の大切さを理解し、社会を支える一人の納税者を育成していくための重要なものである。私たちの生活が「暮らしやすい」と感じられるのは、一因として税を活用した社会保障の制度があるためであり、そのために税を納めていくことが重要であることに気付かせなければならない。社会科の学習で行う税に関する学習では、その多くが国の財政に関することであり、それだけでは税が私たちの身近なところでも活用されていることに気付きにくい側面がある。今回の研究委嘱を受けて、私たちの住む鹿児島県や中種子町の財政について考えたり、国や地方公共団体の歳入や歳出について知り実際に予算を立てたりする体験を行うことで、さらに身近なところで税がどのように活用されているのかを知り、税の大切さを感じることができないのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究の仮説

租税教育を通して、税の種類や制度、課題などについて学習するだけではなく、身近な地域の税について考えたり、実際に予算を作成したりすることで、税をより身近なものについて意識するようになり、一人の納税者として社会を支える一員として自覚や責任をもつことができるようになるのではないかと。

4 研究組織



5 租税教育の全体計画



6 租税教育年間計画

(1) 1年目の取組（令和3年度）

4月	○租税教育研究委嘱状交付
5月	○研究主題・計画の立案 ○租税教室（全学年）
6月	○租税教室の反省および次年度租税教室の立案
7～8月	○税に関する作品（作文）の作成（夏休み課題）
9月	○税に関する作品（作文）の出品 ○税に関する授業実践（社会科） 第1学年・・・奈良時代の人々の暮らし（歴史的分野）
10月	○税に関する授業実践 第2学年・・・地域おこしの知恵（地理的分野）
11月	○税に関する作品の表彰（全校生徒に紹介）
12月	○税に関する授業実践（社会科） 第3学年・・・税金を納めること（公民的分野）
1月	○税に関する書籍の購入（『マンガでわかる！税金のすべて』）
2月	○研究のまとめ（1年間）
3月	○次年度の研究に向けて計画の修正

(2) 2年目の取組（令和4年度）

4月	○租税教育の準備・打ち合わせ
5月	○租税教室（各学年のテーマに応じて別々に開催） ○税に関する書籍コーナーの設置（各教室）
6月	○租税教室の反省および財政教育プログラムの準備・打ち合わせ
7～8月	○税に関する作品（作文）の作成（夏休み課題）
9月	○税に関する作品（作文）の出品 ○財政教育プログラムの実践，租税（財政）教育についてのアンケート ○税に関する授業実践（社会科）→前年度と同じ単元（第1学年）
10月	○税に関する授業実践→前年度と同じ単元（第2学年） ○研究発表に向けての準備，冊子作成
11月	○鹿児島県租税教育研究会での発表 ○税に関する作品の表彰（全校生徒に紹介）
12月	○税に関する授業実践（社会科）→前年度と同じ単元（第3学年）
1～3月	○研究のまとめ（2年間）と次年度以降の取組について検討

Ⅲ 研究の実際

1 租税教室

租税教室は、研究委嘱期間の2年間を見通し、次のような構想を立てて実施した。

令和3年度		令和4年度	
全学年共通の内容を、各学年事に実施		各学年事にテーマを設けて実施	
テーマ	第1学年	▶	第1学年「国の財政について」
「国の財政について」	第2学年	▶	第2学年「鹿児島県の財政について」
	第3学年	▶	第3学年「中種子町の財政について」
			▶ 卒業後、高等学校などで学習

(1) 令和3年度租税教室

令和3年度の租税教室は、全学年共通のテーマである「国の財政」について税務署の方を講師として招いて実施した。内容については、中学生用租税教育教材である「わたしたちの生活と税」や租税教育DVD教材である「アナザーワールド」を活用しながら、税の種類や財政の状況について詳しく講話をしていただいた。

新型コロナウイルス感染拡大が心配される中での実施となったため、各学年で1時間ごとに実施することで感染対策を行った。感染対策のための学年ごとの実施であったが、結果的には全校で参加するよりもより近いところでスクリーンを見ることができ、1億円のレプリカに触れる時間も多く確保できたことで、意欲的に質問や発表を行う生徒が多く見られた。



第1学年の様子



第2学年の様子



第3学年の様子

(2) 令和4年度租税教室

令和4年度の租税教室は、前年度全学年共通のテーマであった「国の財政」を第1学年のテーマに設定して実施した。内容については、前年度と同様に、中学生用租税教育教材である「わたしたちの生活と税」を活用しながら、税の種類や財政の状況について講話をしていただいた。今年度は9月に行う財政教育プログラムに向けて、税についての知識を身に付けるだけでなく、身近なところで使われている税や日本が毎年の歳入が足りず国債を発行している(借金をしている)ことにも触れていただき、より税についての興味・関心を高められるように内容を工夫していただいた。

第1学年の租税教室の様子



前年度に「国の財政」について学んだ第2学年については、テーマを「鹿児島県の財政」について設定し、熊毛支庁に勤務する県税課の方を講師に招いて租税教室を実施した。前年度に学んだ国の財政について復習した後、都道府県や市町村の中には税金が多いところと少ないところがあり、自分たちの地域で得ている税金(自主財源)が少ないところほど、国から支給される地方交付税交付金が重要であることや、鹿児島県は47都道府県の中でもかなり自主財源が少ない方であることを説明していただき、財政上大きな課題を抱えていることを講話していただいた。

第2学年の租税教室の様子



第2学年と同様に、前年度に「国の財政」について学んだ第3学年については、鹿児島県よりもより身近な地域社会である「中種子町の財政」をテーマに設定し、中種子町役場税務課の方を講師に招いて租税教室を実施した。講話では、中種子中学校の建設費用や中学生一人あたりに105万円ほどのお金が税金から使われていることなど、税が中学生にとっても身近なところで使われていることを説明していただき、税に関する興味・関心を高めた生徒がほとんどであった。また、中種子町が多くの公債残高(借金)を抱えていることを知り、中種子町の財政について知識を深めるだけでなく、「今までは『誰かが解決してくれるから大丈夫』と思っていたけど、自分の身近なところから変えていくことが大切だと思った。」と感想を述べている生徒もいた。

第3学年の租税教室の様子



2 税に関する授業実践(社会科)

税に関する学習内容が特に多い社会科では、小単元の学習内容を踏まえつつ、税に関する内容について深く考察することができるように授業を展開できるようにした。授業については、地理的分野や歴史的分野、公民的分野のすべての分野で授業を実践した。令和3年度と令和4年度では、教科書が変更になり全く同じ内容の授業を実践することは難しかったが、令和3年度に行った授業内容に関連するところを令和4年度でも実施し、税に対する興味・関心を高め、税に対して主体的に考え行動することができるような内容に改善して授業実践を行った。次に紹介する学習指導略案は、その授業の一つである。

社会科学学習指導略案(歴史的分野)

- 1 単元名 「古代までの日本」
小単元名 「奈良時代の人々の暮らし」

2 単元の目標

- (1) 律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を取り入れながら国家の仕組みが整えられ、天皇や貴族による政治が展開したことを理解する。 【知識・技能】
- (2) 東アジアとの接触や交流と政治や文化などの変化に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。 【思考・判断・表現】

3 本時の実際

(1) 本時の学習目標

- ① 奈良時代の人々は、どのような暮らしをしていたのか考える。
② 律令国家が成立したことで、奈良時代にどのような税制ができたのか理解する。

(2) 本時の実際

過程	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 前日や今朝食べた食事の内容を振り返る。	2分	1 近くの人と話をし、相談しやすい雰囲気づくりを行う。
	2 奈良時代の人々の食事についての写真を見る。	5分	2 奈良時代の人々と自分たちの食事を比べる。食事はそんなに悪くないという感想もよい。
	3 学習課題を確認する。	3分	
奈良時代の人々は、どのような暮らしをしていたのか。			

展 開	4 班田収授法について学習する。	5分	4 税の発生に気付かせる。
	5 人々が負担した税の表を見て、気付いたことを発表する(ペア学習)。	7分	5 男性の負担が大きく、防人などもあったことに触れる。
	6 奈良時代の人々は、どのような暮らしをしていたのかを考える(個人で考えた後、グループ学習)。	13分	6 今の自分たちの暮らしと奈良時代の人々の暮らしを比較して当時の暮らしについて考える。
	7 墾田永年私財法について学習する。	7分	7 租の収入を増やすために行われたことに気付かせる。
終 末	8 まとめを記入する。	7分	8 自分の言葉でまとめる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 奈良時代の人々は、口分田に応じて租を納めるだけではなく、男性は調・庸などの税も負担しており、苦しい生活をするなど、逃亡する人もいるほど苦しい生活をしていた。 </div>		
	9 次時の予告をする。	1分	

(3) 評価の基準

- ① 奈良時代の人々は、どのような暮らしをしていたのか考えることができたか。
- ② 律令国家が成立したことで、奈良時代にどのような税制ができたのか理解することができたか。



【奈良時代の人々の暮らしについて考える様子】



【今の暮らしと奈良時代の人々の暮らしを比較する様子】




前年度よりも令和4年度で工夫を行ったところは、奈良時代の人々の暮らしについて考えるだけではなく、今の暮らしと比較して、より税のことについて考えさせたところである。奈良時代の人々の食事を見たときには、「この食事でもいい」「こっちの方が健康に良さそう」といっていた生徒がいたが、後半は「今の暮らしの方が良い」「奈良時代の人々の生活は苦しすぎる」などの記述が見られた。「じゃあ、なぜ今の方が暮らしやすいのか？」と問うと、「税が重すぎない」や「税が有効に使われている」という答えが返ってきて、税の大切さについて考えることができた様子であった。

3 財政教育

税に関する知識や理解がある程度深まったところで、財務省・財務局が行っている「財政教育プログラム」を活用し、国の予算案を実際に考える活動を行った。さらに、本校の研究主題に設定している「地域社会に貢献する意欲や態度を育成する」ために、2・3年生については、この「財政教育プログラム」の内容を参照させていただきながら、鹿児島県や中種子町の予算案を作成する活動を行った。

(1) 財政教育プログラム(第1学年)

「財政教育プログラム」は、財務省・財務局の職員が全国の小・中学校や高等学校に無料で出張して授業を行う事業である。税に関する学習で得た知識を活用してこそ真の知識となり、予算案を作成する取組の中で新たな発見があるのではないかと思い、この事業を活用することにした。

学習活動・学習内容	生徒の学習の様子
<p><導入></p> <p>1 財政学習教材『日本の財政を考えよう』を基に、日本の財政状況を確認する。</p> <p>2 財政教育プログラムの目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>財務大臣になって、国の予算案を作成しよう。</p> </div>	 
<p><展開></p> <p>3 歳入や歳出の内容を見直して、国の予算案を作成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>自分たちが「こんな社会にしたい」と設定したテーマが実現できるように、増税や減税、歳出の見直しを行って予算案を作成する。入力するだけで、借金が増えるか減るかが分かる。</p> </div>	

4 自分たちが作成した予算案を
発表する。

自分たちの作った予算案を
スクリーンに映して、何を
テーマにして、どこを工夫
したのかを発表する。



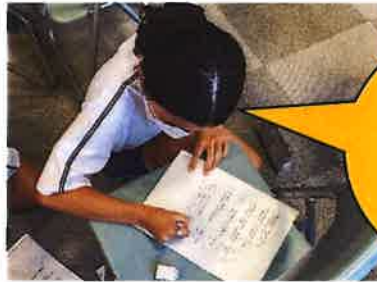
借金は増えるけど、災害に強い
国になります！

難しいテーマだ
ったけど、よく
考えたね。



<終末>

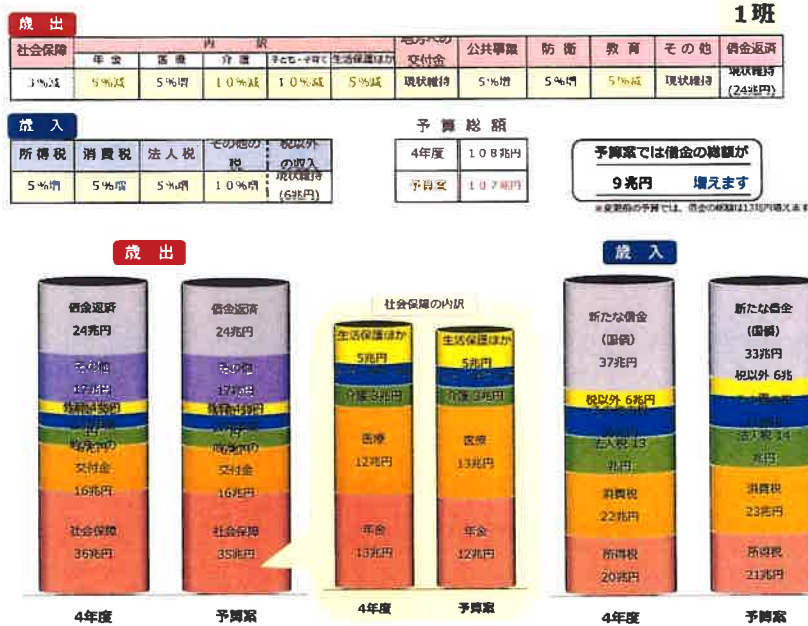
5 振り返りをする。



難しいからこそ、
自分たちでも考え
ることが大切。

<予算案の紹介(1班)>

財務大臣になって予算を作ろう！



この班は大型台風が通過した後だったため、「災害に強い国」をテーマに予算案を作成。

<グループワークシートの紹介(1班)>

グループワークシート【財務大臣になって予算を作ろう！】

1 班

1. 予算案のテーマを決めよう。 (例)「高齢者に優しい社会」、「教育の充実」など

災害に強い国づくり

2. グループで複数の予算案を考えよう。グループで話し合った内容(増減した理由など)をシートに書き込みながら進めてください。

削出予算	追加予算	減入予算	減出予算
<p>社会福祉 合計: ネットワークの構築を促進しよう</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: 今までも同じくらい思っているから。</p> <p>教育</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: 災害が起きたときに助けるため。</p> <p>防衛</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: 家族も最後まで通してほしいから。</p> <p>子育て・子育て</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: 子育費が少なくていいから。</p> <p>生活保護</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: しょうがい者で働ける場所が増えているから。</p>	<p>地方への交付金</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: 今までも同じくらい思っているから。</p> <p>社会保障</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: 老老介護を減らすこと。災害に強くするため。</p> <p>防衛</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: 自衛隊に任せてもらうため。</p> <p>子育て</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: 子育費が少なくていいから。</p>	<p>その他</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>(A) 子育て支援費 削減 □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: 今までも同じくらい</p> <p>(B) 資料決定の経費 削減 □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: "</p> <p>(C) エネルギー対策 削減 □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: "</p> <p>(D) 生活保護 削減 □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: "</p>	<p>削減</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: 借金減らすため。</p> <p>削減</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: "</p> <p>削減</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: "</p> <p>削減</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: "</p> <p>削減</p> <p>削減 ()% □削減の理由 □減額 ()%</p> <p>理由: "</p>

災害に強い国を造るために、介護や子ども・子育て、生活保護、教育などの費用を減らし、医療と防衛の費用を増額した。それでも費用が足りず、所得税や法人税、消費税などをすべて5%増税したが、国の借金は毎年8~9兆円増える計算となった。

<授業後の感想(1班のメンバー)>

この授業を受けて財政について
かんしんをもてた。グループでやったとき
は8兆円借金するのであらためて
よさをたてるのは難しいなと思った。

グループで「予算案」を考えることが、今まで無い。沖か
らむ無いと思うから、とても新鮮で楽しかった。また、予算
案を考えることが、ほかだけ大変がも知り、その中でも、決め
ていくのはスゴい。とかんじました。

「財政」について興味をもてたと同時に、難しさや大変さを感じることができた様子。

(2) 財政教育(第2・3学年)

第1学年の生徒たちが「財政教育プログラム」に取り組む様子を見て、税に対する興味・関心を高め、理解を深めることに有効だと感じたが、このプログラムは「国の財政」にのみ活用できるプログラムであるため、第2・3学年の生徒たちについては、このプログラムを参考にしながら、本校の職員たちが財政教育を実施した。内容は、第2学年の生徒たちが「鹿児島県の財政」、第3学年の生徒たちが「中種子町の財政」を題材にして、それぞれの財政状況を確認した後、それぞれどんな地域社会にしたいのかテーマを設定して、そのテーマを実現できるような予算案を作成することにした。流れについては、上述した「財政教育プログラム」と同様であるが、予算案を簡単に作成することができるタブレットが使用できないため、増税や歳出の削減を行った割合(%)分を、減税や歳出の増加にあてさせるように考察させることにした(割合は、歳入・歳出全体に占める割合として計算した)。なお、鹿児島県の財政については、鹿児島県のホームページで見ることができる「令和4年度当初予算(案)の概要」や「財政のしおり」を参考に、中種子町の財政については、中種子町役場からいただいた「令和4年度当初予算資料」を参考に考察し、歳出等の項目については、夏休み課題として調べさせて臨ませた。



【第2学年の活動の様子】



【第3学年の活動の様子】

自分たちの設定したテーマが実現できるような予算案を作るために、各費用の割合を計算することに苦戦をしつつも、グループのメンバーと意見を出し合って何とか予算案を作り上げることができた。

<第2学年の生徒たちが作成した予算案の紹介>

<鹿児島県をどんな県にしたいかテーマを決めよう> 例~高齢者に優しい,子育てしやすい 等

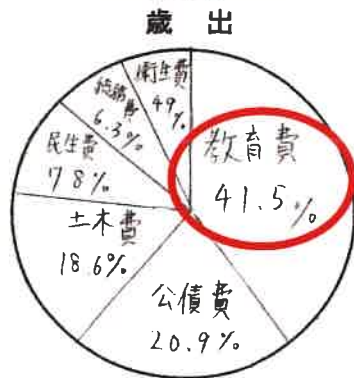
大学の授業料を無償に

<テーマのような県にするために,どんな財政計画を立てたらよいか>

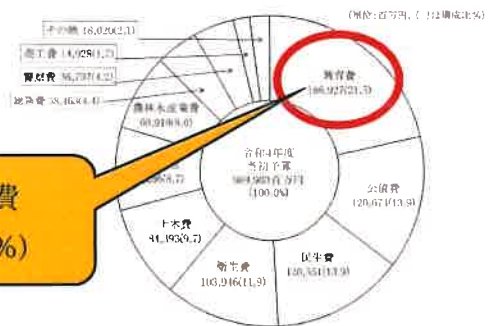
歳入					
県税(税込)	地方交付税	国庫支出金	地方消費税 諸収入	県債(借金)	その他 (特別会計)
増 減	増 減	増 減	増 減	増 減	増 減
+10%	0%		+10%		+7%
理由 子育てを促し財政 健全化を図る	理由	理由 国庫からの補助 金が増えるから	理由 消費税 20%	理由 増額して借入 を減らす	理由 特別会計の 健全化を図る

歳出						
総務費	民生費	衛生費	土木費	教育費	公債費	その他 ()
増 減	増 減	増 減	増 減	増 減	増 減	増 減
+4%	-4%	-7%	+10%	+20%	+7%	
理由 若いうち に貯蓄して おく	理由 高齢者に 対しては 優遇する (区:寮)	理由 777まで 行くとけ 自由	理由 公立の 高校を 増やす	理由 大学まで 授業料を 無料にす る	理由 借入を 減らす	理由

<私たちが考えた鹿児島県の財政プラン(歳出)>



<鹿児島県令和4年度の当初予算>



このグループは,大学に進学したい生徒が多かったため,「大学の授業料を無償に」というテーマを設定し,予算案の作成を行った。いくら必要か想像がつかない様子であったが,とにかくいろいろな費用を削って教育費の予算を20%増加させ,そのために県税の増税も仕方がないという結論になり,健康のためにたばこにも増税を考えていた。

<第3学年の生徒たちが作成した予算案の紹介>

<中種子町をどんな町にしたいかテーマを決めよう> 例~高齢者に優しい,子育てしやすい等

充実した教育を受けられる町づくり

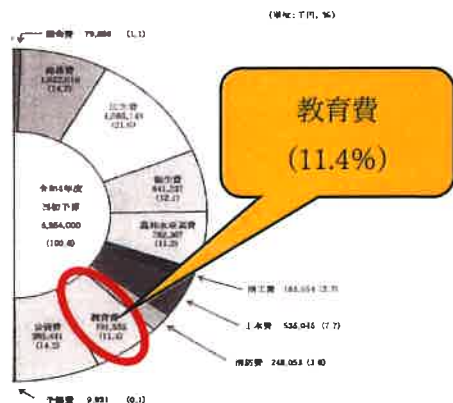
<テーマのような町にするために,どんな財政計画を立てたらよいか>

歳入					その他
町税(税込)	地方交付税	国庫支出金	県支出金	町債(借金)	
増 減	増 減	増 減	(増) 減	増 (減)	
10	40	8	22	8	12
理由 税金は簡単に上げられないから	理由 足りなかつたりたつたりしておきりにしたいから	理由 :	理由 歳出のため。	理由 あと少し減らしたいから	

歳出						
総務費	民生費	衛生費	農林水産業費	教育費	公債費	その他
(増) 減	増 減	増 (減)	増 減	(増) 減	(増) 減	増 (減)
15	21	10	11	16	15	12
理由 教師の人数を増やすため	理由 高齢化が進んでいるから	理由 使う項目に必要ないと思つたから	理由 農林水産業は中種子町の大事な産業だから	理由 教師の数を増やして少人数での授業を行えるようにする。	理由 利息が増えるのを防ぐため	理由 議会費が高いと思つたから

<私たちが考えた中種子町の財政プラン(歳出と歳入)>

<中種子町令和4年度の当初予算>



このグループは、「充実した教育を受けられる町づくり」をテーマに設定して、予算案を作成した。特に、教育の中でも「先生たちの数を増やして、習熟度や少人数に分かれて授業を受けられるようにすれば、もっと学力が向上するのではないか」と考え、教育費を5%増加させて、中種子町独自の取組として教員の確保ができるように予算案を作成している。その財源については、県支出金の増額を考えつつ、町債を減らしたいとも考えているため、歳入についてもっと考察することができれば、さらに良い案になったように感じる。

4 税に関する作品(作文)について

税に関する作品については、国語科で書道作品の応募を、社会科で作文の応募を行っている。作文の応募に関しては、例年1・2年生を対象に取り組ませていたが、令和3年度からは全学年の生徒を対象に作文に取り組ませた。ほとんどの生徒が期日内に提出し、意欲的に作文に取り組んだ。

＜種子島税務署長賞受賞 牧瀬 美咲さん(3年)の作文＞

コロナ禍でも・・・

新型コロナウイルスが流行し始めて、約1年半が経ちました。今でも、拡大し続けていて、私が住んでいる所も夏休みに入ってから急激に感染者が増え続けています。また、ニュースでは、新型コロナウイルスの事が毎回取り上げられています。新型コロナウイルスは、絶えず拡大していて、私たちの生活を大きく変え、「平和な日常」をまた一つ奪っていきました。

そんな中、新型コロナウイルスでも税金が使われていることを知っていますか？私は、この前に知りました。その事を知って「税金」というものがあって、本当に良かったと思いました。

例えば、新型コロナウイルスに感染しているか検査する時のPCR検査や感染してしまった時の入院・治療などの費用は自分で負担する必要がありません。私は、「どうしてお金を払わなくていいの？」と母に聞きました。けれど、「知らない。ネットで調べたら。」と言われました。ネットで調べると「公費」というもので賄っているそうです。「公費」について詳しく調べると、「公費」のものは「税金」で、国や自治体の費用だそうです。「所得税」や「消費税」で集めたお金は「公費」になるそうです。私は、「公費」という言葉を聞いたことがなかったもので、新しいことを知ることができました。

他にも特別定額給付金やGOTOトラベルキャンペーン、マスク不足を解消するために全世帯にガーゼ製の布マスクを配布した「アベノマスク」などにも税金が使われています。私の学校では、私が二年生の時に修学旅行がありました。私が住んでいる所は、当時新型コロナウイルスがいなかったけれど、他の都道府県は、感染者が多く、修学旅行が延期になりました。延期になってから、何ヶ月か経って、新型コロナウイルスの感染者が少なくなった時に、修学旅行を実施することができました。また、そのころにGOTOキャンペーンがありクーポンをもらいました。みんなですっかり感染予防をしたので、誰も感染せずに無事、帰ってくることができました。身近な所でも税金に使われています。

このように、税金は色々な所で使われています。税金が8%から10%になった頃、「税金また高くなった」「税金いらない」と思っていた時もあったけれど、「税金」は、とっても大切なものだと思います。これからも新型コロナウイルスと共に生きていかないといけません。だから、他の人にも新型コロナウイルスでも「税金」が使われていることを知ってほしいです。

5 税の書籍コーナー

様々な事柄において、「分からないことには興味が湧かない」ことがある。生徒は、社会の中で消費税を納める納税者であるが、消費税以外の税については入湯税などほんの一部を納めているに過ぎず、税が身近な環境であるとは言えない状況である。だからこそ、租税教育を行って税に関する興味・関心を高める工夫を行っているのだが、もっと身近なところで税について知り、学ぶことはできないかと考えたときに、各教室に税の書籍コーナーを簡易的に作り、いつでも読むことができるようにしたらよいのではないかと考えた。コーナーを設置した初めの頃は、あまり書籍を読んでいる様子は見られなかったが、徐々に読む生徒が増え、税に関する学習では何気なく持ってきて税について調べる様子が見られた。書籍については、各教室に3冊ずつ置き、税に関する授業で活用するときには、2人で1冊を活用できるように20冊近く購入した。



【税の書籍コーナー(POPは3年生が作成)】



【税の書籍で調べものを行う生徒の様子】

6 テスト問題として出題

夏休み課題の一つとして、税に関する作文に取り組ませたため、夏休み明けの実力テストに税に関する自分の考えを記述する問題を出題した。文章を書くことが苦手な生徒が多いが、全員が意欲的に記述しており、白紙で提出する生徒は一人もいなかった。

<税は必要だと思っどうかに対する生徒の回答を紹介>

私	は	必	要	だ	と	思	い	ま	す	。	な	ぜ	な	ら	私	た	ち	は	消
費	税	の	10	%	な	ど	で	少	し	ず	の	税	金	を	は	ら	っ	て	い
る	た	め	病	院	な	ど	で	一	気	に	お	金	を	出	さ	ず	に	使	う
こ	と	が	で	さ	っ	て	い	る	か	ら	で	す	。	細	か	い	お	金	を
し	ず	っ	出	し	て	も	い	っ	か	は	大	金	に	な	る	の	で	一	
気	に	財	産	を	使	わ	な	く	て	い	い	し	。	あ	ま	り	お	金	が
な	い	人	な	ど	が	救	急	車	を	呼	ぶ	の	を	た	め	ら	い	し	
く	な	。	っ	し	ま	う	か	も	し	れ	な	い	の	で	お	ん	な	が	
苦	ら	し	や	い	社	会	を	つ	く	っ	て	い	く	た	め	に	は	税	金
を	納	め	る	こ	と	は	必	要	だ	と	思	い	ま	し	た	。			

IV 研究のまとめ

1 税に関するアンケートの結果(9月29日実施)

(1) 税に関する学習を行って、興味・関心が高まりましたか？

	高まった	少し高まった	あまり高まらなかった	高まらなかった
第1学年	25.9%	74.1%	0%	0%
第2学年	6.7%	64.5%	24.4%	4.4%
第3学年	32.1%	54.7%	9.4%	3.8%
全学年	22.4%	64.5%	10.5%	2.6%

(2) (1)で「高まった」「少し高まった」を選んだ生徒は、税に関する学習のどんな活動で興味・関心が高まりましたか？

	財政教育	租税教室	作品・作文	書籍	授業	テスト
第1学年	92.6%	37.7%	31.5%	5.6%	13.0%	11.1%
第2学年	55.6%	15.6%	24.4%	8.9%		
第3学年	56.6%	41.5%	20.8%	7.5%		
全学年	69.1%	32.2%	25.7%	7.2%	13.0%	11.1%

※ 第2・3学年については、令和4年度の授業実践やテスト問題での出題はまだ行っていないため、結果として計上しなかった。

(3) (1)で「高まった」「少し高まった」を選んだ生徒は、興味・関心が高まった活動のどのようなところが特に印象に残りましたか？

- ・ 財政教育プログラムでタブレットを使って予算を考えたこと(予算を立てたり、日本の借金がなくなるように計算したりする難しさを感じたこと)。
- ・ 自分たちの考えたテーマを実現するための予算を考えたこと。
- ・ 1億円のレプリカを持ったこと。
- ・ 日本や鹿児島県、中種子町に多額の借金があると知ったこと(日本が抱えている借金は、自分たちの世代で返していかないといけないということ)。
- ・ 租税教室や夏休みの課題で調べる中で、いろいろな税の種類を知れたこと。
- ・ 少子高齢化の影響で、税収が減り、社会保障費が以前の3倍以上になっていたこと。
- ・ 税に関する作文を書くときに、自分にとって税が身近だと感じたこと。
- ・ 税がなかったらと思うと、ゾッとしたこと。
- ・ 税の使い道について詳しく知れたこと。
- ・ 鹿児島県の財政を見て、「もっと無駄なところは削れるのでは？」と思ったこと。
- ・ グループのみんなで意見を出し合い、どうすれば安心して暮らせるかを考えたこと。
- ・ 自分たちの住んでいるところの財政状況を知ることができたこと。

(4) (1)で「あまり高まらなかった」「高まらなかった」を選んだ生徒は、今後どんなことを学んだり、活動してみたりしたいですか？

- ・ 難しかったので、もっとわかりやすい活動がしたい。
- ・ 税にする仕事は、どんなものがあるのか。
- ・ もっといろいろな税について詳しく知りたい。
- ・ これから税はどうなっていくのかを知りたい(増やした方がいい税など)。
- ・ 自分たちが知らなくて、面白い内容を学びたい。
- ・ 他の国にはどんな税(税の歴史)があるのかを知りたい。
- ・ 中種子町の借金はどれくらいあるのかを知りたい。
- ・ 税の一つ一つの種類にどんな役割があるのかを知りたい。
- ・ 税は難しいから、別なことを学習したい。

(5) (1)で「あまり高まらなかった」「高まらなかった」を選んだ生徒は、今後どんなことを学んだり、活動してみたりしたいですか？

<第1学年>

昔は、「税は払いたくない」と考へていたが、税を払うとまほうの国が発展し豊かになっていくことを知り、やはり税は払った方がいいという考へになりました。買い物や税金のときなどに、税を払うことで、「ほくも社会に貢献しているんだ」と思えるようになった。

中学校で税に関する学習をしたことで、「税の大切さ」をしっかりと学ぶことができた。税に付いての興味や関心が高まりました。これから、税についてもっとも、調べていろいろなことを知り、いかにまほうの国が取たらの命や生活を支えてくれて、すこく感謝したいと思ひ、「租税教室」や「税に関する作文」などもして本当によかんなあとと思ひます。

税に関する学習をしたことで、公園や交番などの施設やサービスに税金が使われていることを知って、税を納めないと大変なことになるので、税をしっかりと納めていこうと思うようになりました。

税は、私達が安心して暮らしていくために、必要なものということを知っていましたが、日本が借金をしていることや、これからの消費税の金額が上がる、っていくということを知り、これからの私達にとって、税はとても身近にあるということが感じました。日本を支えていくためにも、税は大事なんだと、より強く思いました。

<第2学年>

まず、税の標原が沢山のものがよくりました。
税金の使い道があまり分かっていなくて、税の学習は、良いき、か
けは、たし、財政教育は、自分たちで色々知るとも書いていって
こうならば、もっと良いんじゃないかな、と考えることができて良かったです。

私は税金なんてなりたてはいいのにも思、てい
たけど、私達の生活や収入にも関係あ
ると分かって、しっかり税を払うように
したいです。

日本が他の国にしている借金が千兆円くらいだ、と聞いて今後私たちが税金
などを払ってその借金を返していかなければいけないと考えると本当に他人事ではない
んだなと思いました。いろんな税についても、と知りたいと思いました。税について
考えたりするのは大変でしたが興味を持つことができた

何の税をふやした方が良く、減らした方が良くなどと考えて、
今まで思っていた考えがちがうようになって、こので楽しかった
なと思いました。税で出来たものやサービスを大切にしていこう
と思いました。

<第3学年>

税は、私たちの生活にとって大事な、と思った。財政教育
では、中種子町の税の割合と日本の税の割合を見て
思ったことは、他のところからたよっていることは知らな
かったので知ることができてよかった。

今までは、税のことについてくわしく知らなかったけ
ど、税に関する作文づくりの中で中種子町のことに
くわしく知ることができ、中学生のうちに中種子町の株を
考えることができた。

もう少しいろいろな所で税金を減らしていけば、他の戸
に使えるのになと思うことが多かったです。

そして、税金の中に知らない名前がたくさんあっておもしろ
いなと思いました。

税は、消費税が108円から110円にあげ、7.7たん
なんだろうと思ったけど、それにもしかりとした意味が
あることや税金がなから、消費税など呼べないことな
どを知ると、税金のことをきくとかなないと感じた。

2 アンケート結果の考察

アンケート結果から、税に関する興味・関心が高まった生徒が多くいたことが窺える。特に、財政教育として日本や鹿児島県、中種子町の財政について知り、自分で予算案を立てる活動は、全校生徒の約7割が興味・関心が高まったと答えている。難しさを感じながらも、自分たちで考察したことを形にしていく体験的活動は、税に関する興味・関心を高めるだけでなく、知識や理解を深め、さらなる探究心をもって学習に取り組む態度を育成することに効果的だと感じた。ただ、学年間で興味・関心の高まりに差があることが分かり、財政教育でタブレットを使って予算案の作成がしやすかった第1学年の生徒は9割以上の生徒が興味・関心が高まったと回答しているが、第2・3学年の生徒は55%程度にとどまり、活動の難しさが興味・関心の高まりを抑制してしまったようにも思える。また、第2学年の生徒たちは、テーマは違うが第3学年の生徒と同じような活動をしており、特に難しさを感じたところが興味・関心の数値に影響したように感じる。

課題として改善していくべきところがあったが、大々的に行った活動ではなくても、書籍コーナーを設置したり、実力テストの問題として出題したりするなど、普段の教育活動の中で税のことを意識しながら活動していくことで、わずかながら興味・関心を高め、意欲的に税のことについて学んでいることがアンケートから窺うことができる。また、自分たちが住んでいる地域社会の財政をテーマにしたことで、自分たちの現状や将来に直結してくると感じた生徒も多く、難しい活動であっても粘り強く取り組もうという姿も見られ、地域社会に貢献しようとする意欲や態度も育成できたと感じる。第2学年の生徒の中には、「鹿児島県よりも中種子町の借金が気になる」と答えた生徒もおり、テーマ設定の難しさを感じたが、段階的により身近な地域について学習することは、次学年での租税教育に意欲的に取り組むことにつながっていくように感じる。

税に関する授業実践は、第2・3学年とこれから実施していくものもあるが、思っているほどの興味・関心の高まりがなかったことが分かり、さらに工夫を重ね次年度以降の実践を行っていく必要があることも分かった。

3 研究の成果

- (1) 租税教育全体の取組によって、生徒の税に対する知識や理解を深め、納税意識を高めることができた。
- (2) 財政教育で行った予算案の作成など、主体的に学習できる体験的な活動や、今まで知らなかった税に関する新しいことを知ることができる租税教室は、生徒の興味・関心を高めるために効果的な活動であると分かった。
- (3) 身近な地域社会のことをテーマに学習することで、より意欲的に活動に取り組み、将来の自分たちの姿だけでなく、地域社会の在り方にまで考察することができる生徒が出てきた。
- (4) 普段の教育活動の中で、より税に関する意識をもって私たち教師が指導を行っていくことで、生徒の興味・関心を高め、税について意欲的に学ぼうとする態度を育成することができた。

4 今後の課題

- (1) 地域社会の財政教育を行う際に、計算や考察が難しく、意欲的に取り組むことができない生徒がいた。
- (2) 税に関する実践授業では、税のことについて調べるなどの活動ではなかったため、興味・関心が高まった生徒の割合が思っているよりも低かった。
- (3) 社会科だけではなく、他の教科とも連携を図って横断的に税の学習に取り組ませることができなかった。その影響もあって租税教育の実践時期に偏りがあり、令和3年度に学んだことを忘れていているなど、興味・関心が薄れて知識や理解が十分ではない生徒が見られた。

V 終わりに

2年間にわたって、租税教育研究委嘱校として研究に取り組んできた。「租税教育を通して、税に対する興味・関心を高めるとともに、社会を支える一人としての自覚をもち、地域社会に貢献する意欲や態度を育成する」ことを研究の主題として取り組んできたが、思ったような結果にならない部分もあった。それでも、生徒たちから「税は絶対に必要なものである」や「町のために税をしっかりと納めよう」という感想が多く見られ、課題よりも成果の方を大きく感じることもできた。税がもつ本来の意味である「助け合い」の気持ちを生徒たちが感じ、それがすべての教育活動の中で生かされることで、よりよい学校や地域社会を築いていくことにつながっていくと思う。課題を踏まえながら、今後もさらに研究に励んでいきたい。

最後に、今回の研究を支え、協力してくださった鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、財務省九州財務局鹿児島財務事務所、種子島税務署、熊毛支庁県税課、中種子町役場、その他関係者の方々に心から御礼申し上げたい。